

第 52 回 景気動向アンケート報告

(2018年9月～12月期)

＜前期比で、卸売業を除く 5 業種が改善、製造業、小売業が順位を上げた＞

○業種別業況 (前期比変動) 凡例 前期: 2018年5-8月期 今期: 2018年9-12月期 DI 値: (「良い」 - 「悪い」) ÷ 回答企業数

業種 (今期の高DI値順)	良い			変わらず			悪い			DI 値			同左順位		
	前期	変化	今期	前期	変化	今期	前期	変化	今期	前期	変化	今期	前期	変化	今期
事業所向けサービス	8	↑	10	13	↓	10	5	↓↓	0	+12	↑↑	+50	1	→	1
建設業	5	↑	8	10	↓↓	5	3	→	3	+11	↑↑	+31	2	→	2
製造業	1	↑↑	4	7	↑	8	1	→	1	±0	↑↑	+23	5	↑	3
個人向けサービス業	3	↑	4	8	↑	13	2	↓	1	+8	↑↑	+17	3	↓	4
小売業	0	↑	1	2	↑↑	4	2	↓	1	▲50	↑↑	±0	6	↑	5
卸売業	2	→	2	3	↓	2	2	↑	3	±0	↓↓	▲14	4	↓	6
(全体)	19	↑	29	43	↓	42	15	↓	9	+5	↑↑	+25	-	-	-

変化 →: 同数 ↑: 増加 ↓: 減少 ↑↑↓↓: 変動幅が大きい (2倍、2分の1前後程度以上の変動)

業種 (今期の高DI値順)	回答企業数			同左全体構成比 (%)		
	前期	変化	今期	前期	変化	今期
事業所向けサービス	26	↓	20	33.8	↓	25.0
建設業	18	↓	16	23.4	↓	20.0
製造業	9	↑	13	11.7	↑	16.2
個人向けサービス業	13	↑	18	16.9	↑	22.5
小売業	4	↑	6	5.2	↑	7.5
卸売業	7	→	7	9.1	↓	8.8
(全体)	77	↑	80	100	-	100

・今回調査では、卸売業を除く 5 業種の DI 値が前期比で改善。事業所向けサービス業、建設業、製造業、小売業の 4 業種が前期比で大幅な改善、個人向けサービス業が改善となった。唯一悪化の卸売業は、売上指標での悪化が影響したと見られる。

・6 業種中の順位は、事業所向けサービスが 1 位を、建設業が 2 位をキープ、製造業が 5 位から 3 位に、小売業が 6 位から 5 位に上昇、一方、個人向けサービスが 3 位から 4 位に、卸売が 4 位から 6 位に下げた。

(なお、回答企業数は、前回比+3社の 80 社であった。より有意義な指標とするため、目標の 150 社に向け皆様の益々のご協力をお願い致します)

＜今期全体 DI 値は+25 で前年同期比▲5、前期比+20 ポイント、来期も+23 を予測＞

○全体業況判断 DI の推移 ※ () の数字は、前年同期比の増減

年	1-4 月	5-8 月	9-12 月	年 3 期平均値
2015	+12(▲12)	+5 (▲4)	+24 (+18)	+13.7(+0.7)
2016	+11(▲1)	+12(+7)	+15(▲9)	+12.7 (▲1.0)
2017	+24(+13)	+12(±0)	前年同期+30(+15)	+22.0 (+10.0)
2018	+12(▲12)	前期+5(▲7)	今期+25(▲5)	+14.0 (▲8)
2019	来期予測+23(+11)	-	-	-

・今期(2018年9-12月期)全体業況DIは、+25で、前年同期(2017年9-12月期)DI比では▲5ポイントと悪化、前期(2018年5-8月期)比では+20ポイントと大きく改善。

- ・2012年9-12期以来のプラス領域での推移は、今期で19期連続（6年余の長期となる）。来期(2019年1-4月期)も予測DI+23と、プラス領域での推移となる見通し。
- ・年3期平均値では、景気がワンランクUPしたのではと総括した2017年に対し、2018年は2016年以前のレベルに下げた。また、2018年は3期連続前年同期比でマイナスである。但し、来期予測は+23であり、現時点で景気の流れが下降気味と断ずるのは早計かと思われる。

概 要

○経営上の問題点

別添資料の通り。TOP3は、1位「従業員の不足」と新たに2位「仕入れ価格の上昇」、3位「受注競争の激化」が入った。「仕入れ価格の上昇」の問題化が顕著である。前回TOP3の「人件費の増加」は4位、「価格競争の激化」は5位へ下げた。

○経営上の力点

別添資料の通り。TOP3は、「付加価値の増大」「新規受注（顧客）の確保」「人材確保」。「社員教育」は4位に下げた。下位項目では、「新規事業の展開」「得意分野の絞り込み」等が上昇。

○冬季賞与（総額）の前年対比について

別添資料の通り。大要を把握するため、回答群毎に全回答企業に占める割合について前年同期比の変化を下表に示す。回答項目**赤い文字の二極**が伸びており、中でも、前年支給ありで今回「支給なし」との苦渋の決断をした経営者が5%存在する点は、特に注目を要する。

No.	前年比	回答項目	2017年冬季 (前年同期) 調査	変化	2018年冬季 (今回) 調査
1		「はじめて支給」	2%	↓	1%
2	増額	+30%以上	3%	↑↑	6%
3		+10~20台%	19%	↓	14%
4		+10未満	22%	↑	24%
5	—	「額変化なし」	23%	↑	26%
6	減額	-10%未満	4%	↑	5%
7		-10~20%台	7%	↓	4%
8		-30%以上	1%	↓	0%
9		「支給なし」前年あり	1%	↑↑	5%
10	—	「支給なし」前年もなし	18%	↓	15%
—	—	合計	100%	→	100%

変化 →: 同数 ↑: 増加 ↓: 減少 ↑↑↓↓: 変動幅が大きい (2倍、2分の1前後程度以上の変動)

○経費（人件費以外、交際費や設備投資など）を増やしたか、について

別添資料の通り。前問同様、回答群毎に前年比構成比変化を下表に示す。一般に設備投資や交際費など営業経費等の増減は、景気判断の指標の一つである。赤い文字の「増やした」という回答が▲9ポイントという点、2018年は2017年に比し「好況感がやや減退した」旨の本報告全体業況判断内での指摘事実と符合しているように見える。但し、▲9ポイントのうち、▲8ポイントが「前年と同じ」（51%）の+8ポイントに吸収され、「減らした」は+1ポイントの11%に留まっており、景気の流れに懸念を示すのは、現時点では早計かとも思われる。

No.	回答項目	2017年7月～12月期 (前年同期) 調査	変化	2018年7月～12月期 (今回) 調査
1	「増やした」	47%	↓	38%
2	「前年と同じ」	43%	↑	51%
3	「減らした」	10%	↑	11%
—	合計	100%	→	100%

変化 →：同数 ↑：増加 ↓：減少 ↑↑↓↓：変動幅が大きい（2倍、2分の1前後程度以上の変動）

○今、個人的に注目している「国」、上位3国及び理由について

別添資料の通り。あげられた国の数は、経・政・他の視点をおり交ぜて、20ヶ国である。多いとみるか、少ないとみるか？注目度ランキングを見れば、直球の回答を頂いたことが明瞭である。いろいろな国名をあげて下さった方々の視野、視点の多様さ、柔らかさにも敬意を表したい。なぜか、中南米、中東、アフリカの諸国が入らなかったことも、興味深い。

1. 対象企業 鹿児島県中小企業家同友会会員企業（426社）
2. 対象期間 2018年9月～12月期実績、2019年1月～4月見通し
3. 調査方法 FAX送付
4. 回答企業数 80社より回答を得た（回答率 18.8%）

新年おめでとうございます 本年もどうぞよろしく願いたします

景気動向調査アンケート(第52回)

**目標150社回答!!
ご協力お願いします**

(今期は2018年9月~12月です)

締め切り 1月17日(木)

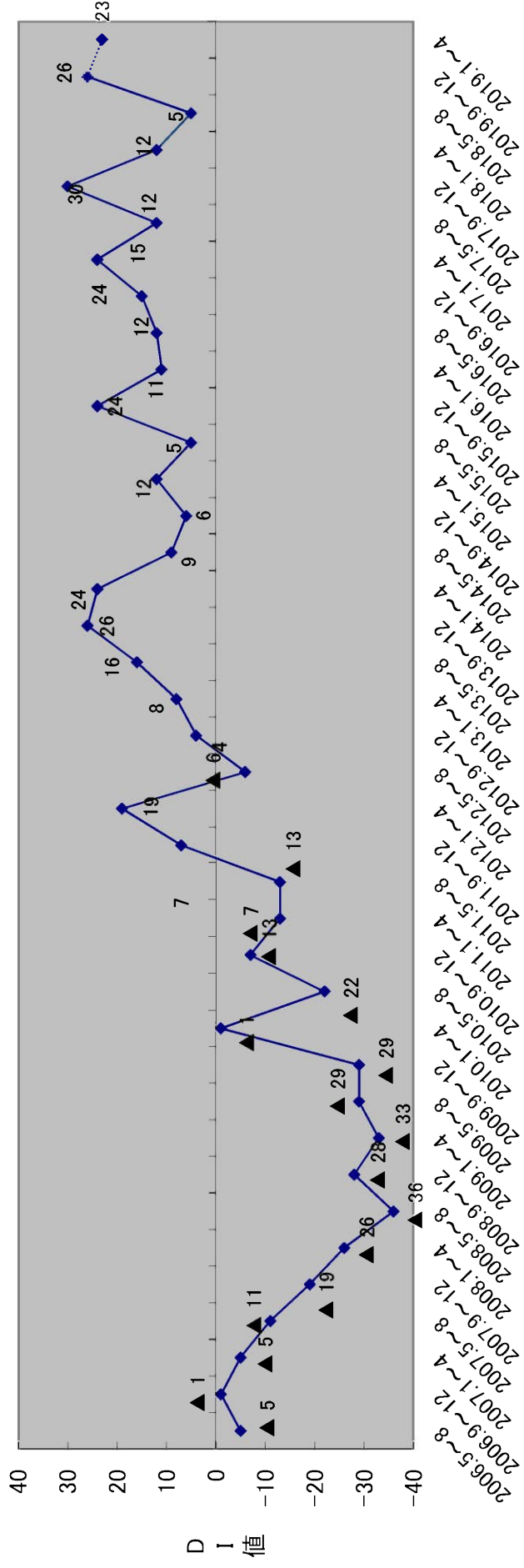
- ☆ この調査は全会員の皆様に送っております。結果は全会員に公開いたします。
- ☆ 尚、個々の調査データ内容は一切公表せず、集計担当者と事務局で保管いたします。(政策委員会)
- ☆ このアンケートは、e.doyuでも実施しています。そちらでご回答いただいた場合はこのFAXでのご回答は必要ございません。

氏名	企業名	
(1) あなたの会社の状況についてお答えください。 (該当するものに○印をつけてください)	業種	1、製造業 2、建設業 3、卸売業 4、小売業 5、サービス業 (a:対事業所向け b:対個人向け) 6、農水産業 事業内容 ()
	(今期) 2018年9月~12月の実績	(来期) 2019年1~4月の見通し
1、業況	良い 変わらず 悪い	良い 変わらず 悪い
	今期の業況について、前期(2018年5月~8月)と比較してお聞かせ下さい。 ①好転 ②横ばい ③悪化	
2、売上	良い 変わらず 悪い	良い 変わらず 悪い
3、収益	良い 変わらず 悪い	良い 変わらず 悪い
4、資金繰り	良い 変わらず 悪い	良い 変わらず 悪い
(2) 経営上の問題点 (上位2つまで選び、番号に○をつけてください)	1、価格競争の激化 2、受注競争の激化 3、売上の減少 4、事業資金の借入難 5、仕入価格の上昇 6、人件費の増加 7、管理費等間接費の増加 8、金利負担の増加 9、従業員の不足 10、税負担の増加 11、その他 ()	
(3) 経営上の力点はどこに置かれていますか (下記の上位2つまで選び番号に○をつけてください)	1、付加価値の増大 2、新規受注(顧客)の確保 3、新規事業の展開 4、得意分野の絞込み 5、人件費削減 6、人件費以外の経費節減 7、財務体質の強化 8、機械化促進 9、情報力強化 10、人材確保 11、社員教育 12、研究開発 13、機構改革 14、その他 ()	
(4) 冬季賞与(総額)についてお尋ねします。前年対比でご回答ください。	【支給あり】 1、増加率10%未満 2、増加率10~20%台 3、増加率30%以上 4、減少率10%未満 5、減少率10~20%台 6、減少率30%以上 7、前年支給なし→今年支給 8、前年から変化なし 【支給なし】 9、前年支給→今年支給なし 10、前年から変化なし	
(5) 前年同時期と比べ、2018年7~12月期の経費(人件費以外。交際費や設備投資など)を増やしましたか。	1、増やした 2、減らした 3、前年と同じ	
(6) ☕ コーヒーブレイク ☕	TOKYO 五輪・OSAKA 万博・貿易戦争・「移民」問題・ゴーン氏の事件等注目ですが、今、世界に目を向けて、あなたが個人的に注目している「国」はどこですか? 上位3か国まで教えてください。できれば、理由を教えてください。 第1位 () 理由 _____ 第2位 () 理由 _____ 第3位 () 理由 _____	

ご協力ありがとうございました。

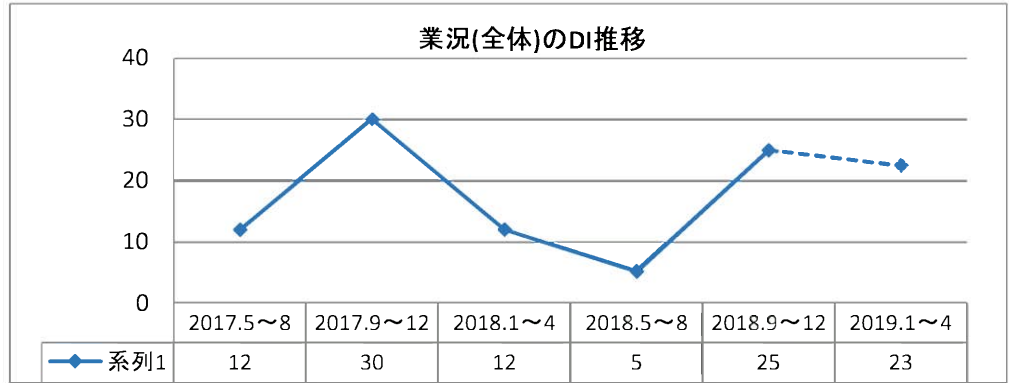
返信はFAXで同友会事務局 (FAX⇒099-259-4838) までお願いします。

全体の業況

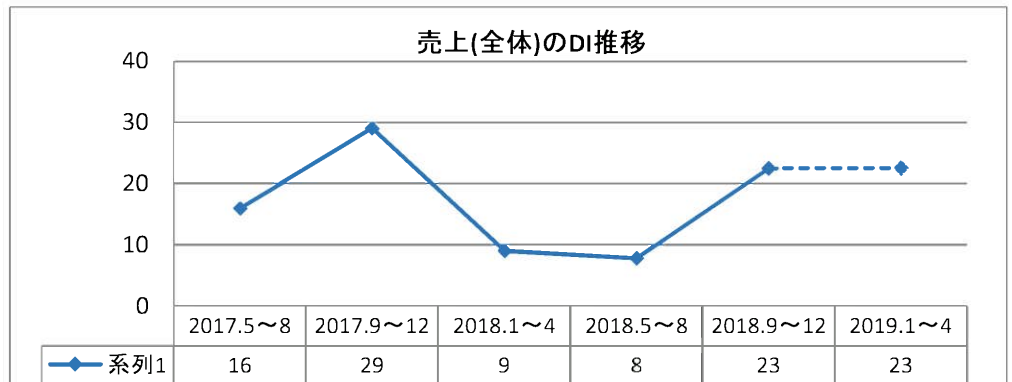


全体

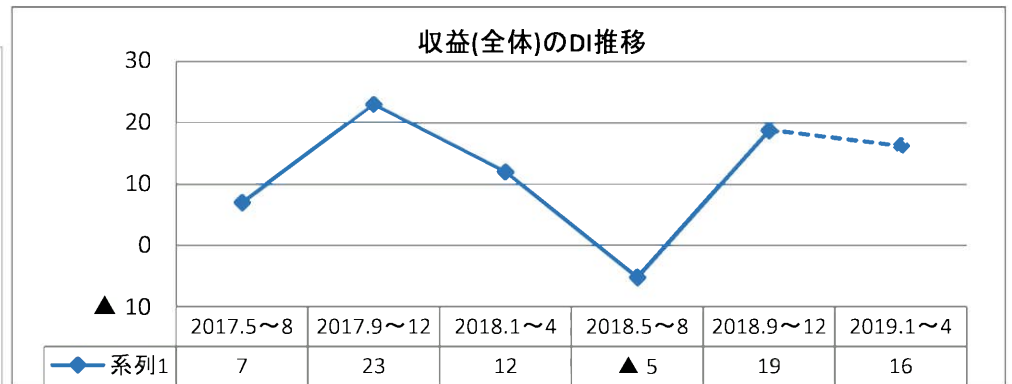
今期の業況は「良い」36.3%、「変わらず」52.5%、「悪い」11.2%でD.I.25.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の業況はD.I.22.5と今期並みの見通しです。



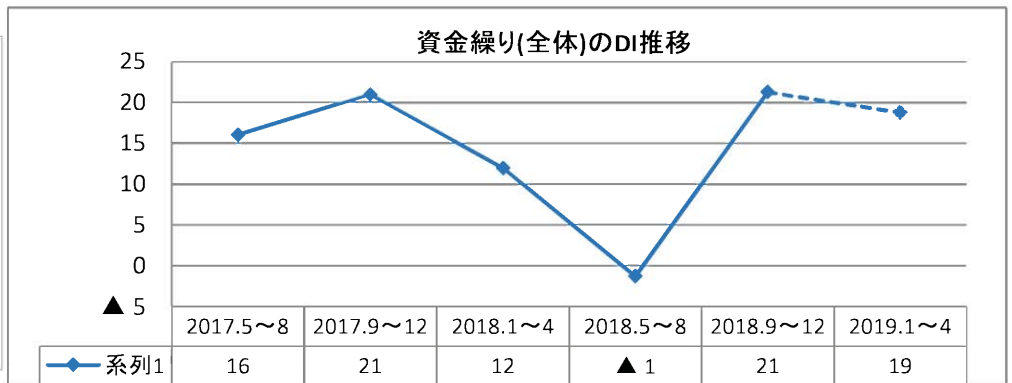
今期の売上は「良い」37.5%、「変わらず」47.5%、「悪い」15.0%でD.I.22.5となっており、前期に比べ大きく上昇しました。
来期の売上はD.I.22.5と今期並みの見通しです。



今期の収益は「良い」35.0%、「変わらず」48.8%、「悪い」16.3%でD.I.18.8となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の収益はD.I.16.3と今期並みの見通しです。

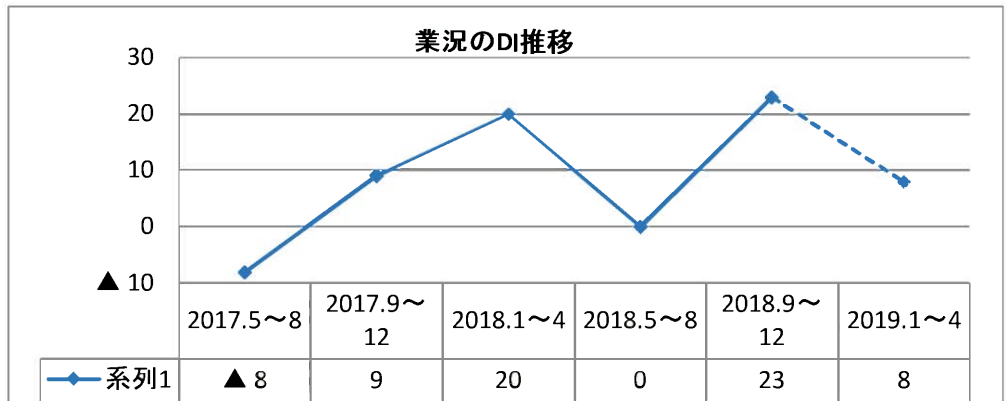


今期の資金繰りは「良い」27.5%、「変わらず」66.3%、「悪い」6.2%でD.I.21.3となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の資金繰りはD.I.18.8と今期並みの見通しです。

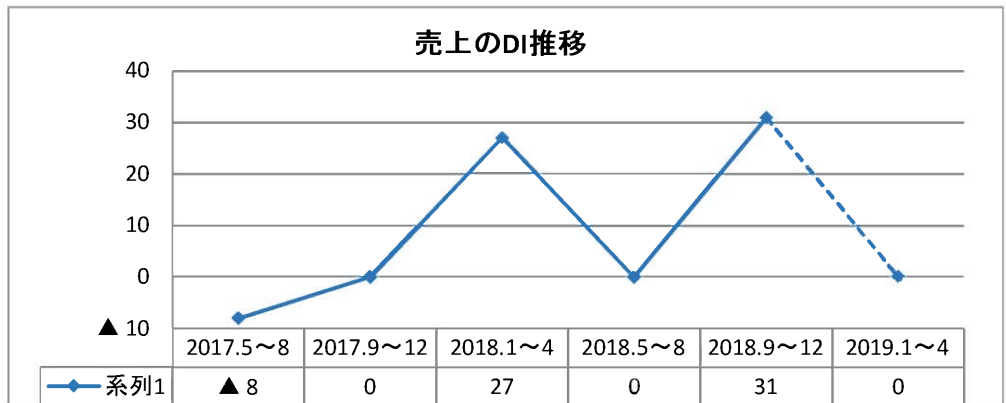


製造業

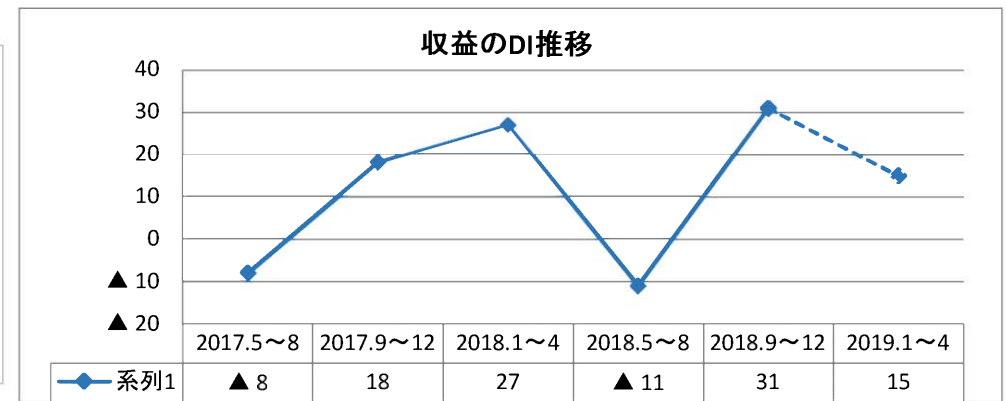
今期の業況は「良い」30.8%、「変わらず」61.5%、「悪い」7.7%でD.I.23.1となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の業況はD.I.7.7と非常に大きく下降する見通しです。



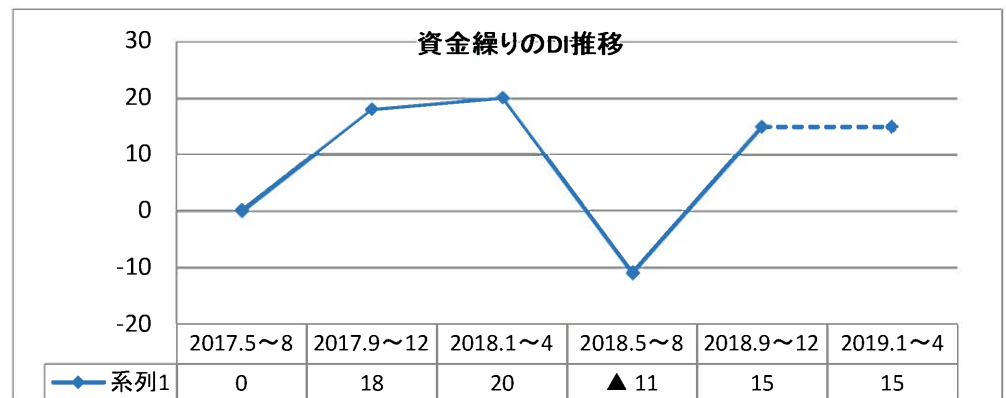
今期の売上は「良い」46.2%、「変わらず」38.5%、「悪い」15.4%でD.I.30.8となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の売上はD.I.0と非常に大きく下降する見通しです。



今期の収益は「良い」46.2%、「変わらず」38.5%、「悪い」15.4%でD.I.30.8となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の収益はD.I.15.4と下降する見通しです。

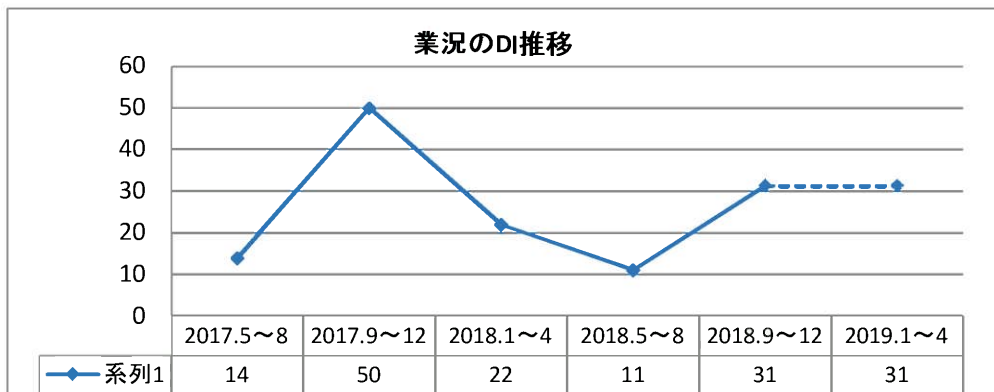


今期の資金繰りは「良い」23.1%、「変わらず」69.2%、「悪い」7.7%でD.I.15となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の資金繰りはD.I.15と今期並みの見通しです。

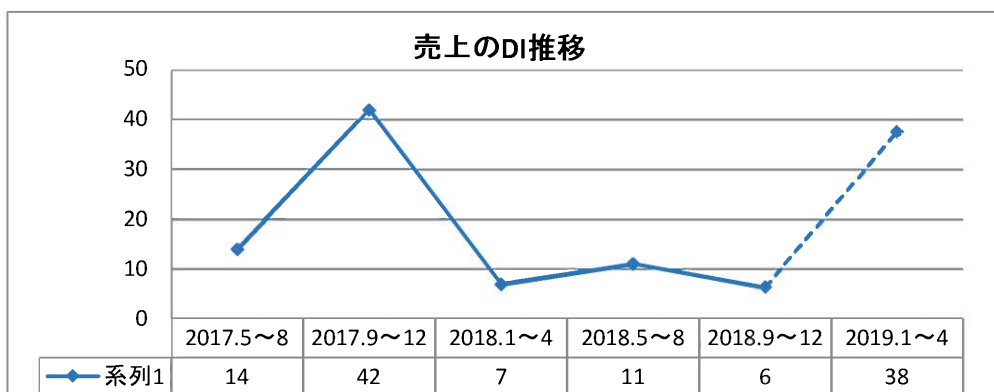


建設業

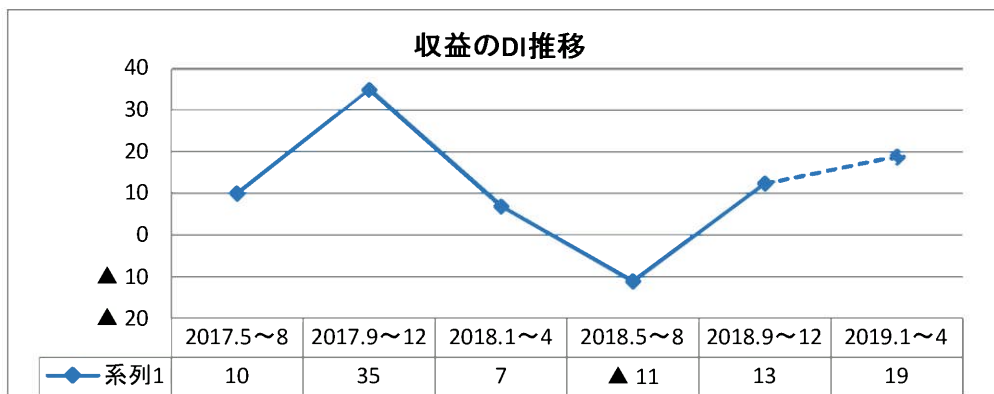
今期の業況は「良い」50.0%、「変わらず」31.3%、「悪い」18.7%でD.I.31.3となっており、前期に比べ大きく上昇しました。来期の業況はD.I.31.3と今期並みの見通しです。



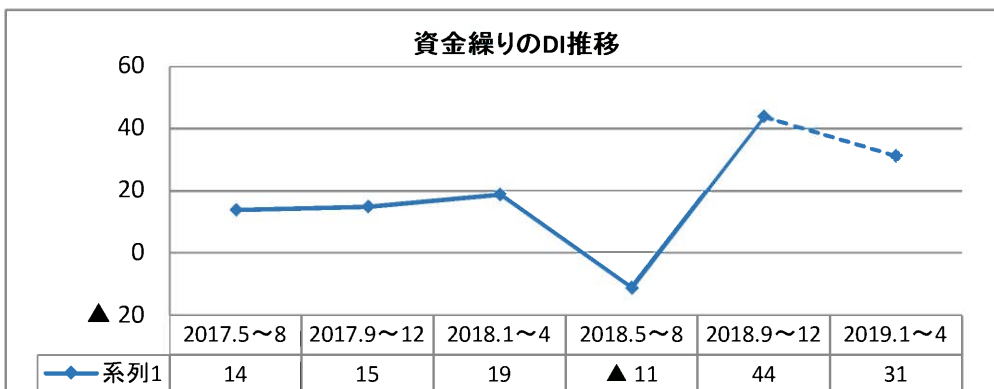
今期の売上は「良い」37.5%、「変わらず」31.3%、「悪い」31.3%でD.I.6.3となっており、前期から下降しました。来期の売上はD.I.37.5と非常に大きく上昇する見通しです。



今期の収益は「良い」37.5%、「変わらず」37.5%、「悪い」25.0%でD.I.12.5となっており、前期に比べ大きく上昇しました。来期の収益はD.I.18.8と上昇する見通しです。

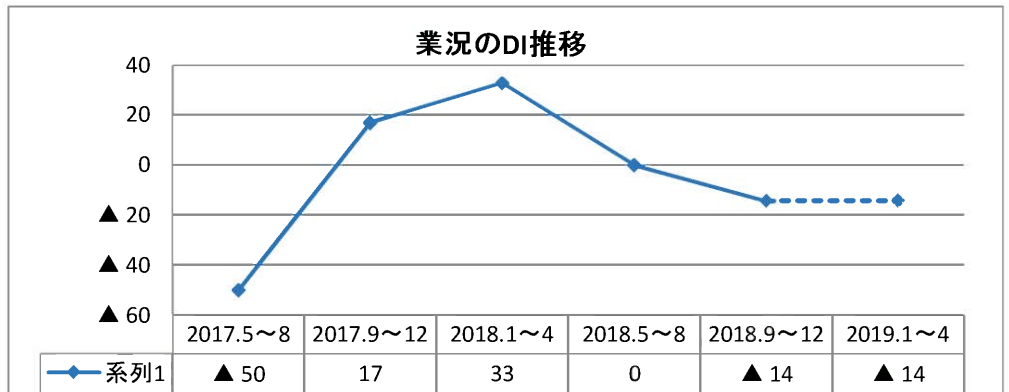


今期の資金繰りは「良い」50.0%、「変わらず」43.8%、「悪い」6.2%でD.I.43.8となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。来期の資金繰りはD.I.31.3と下降する見通しです。

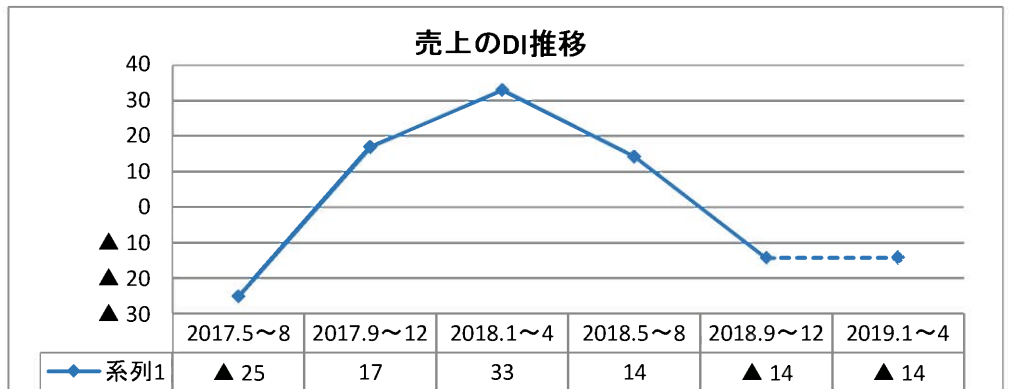


卸売業

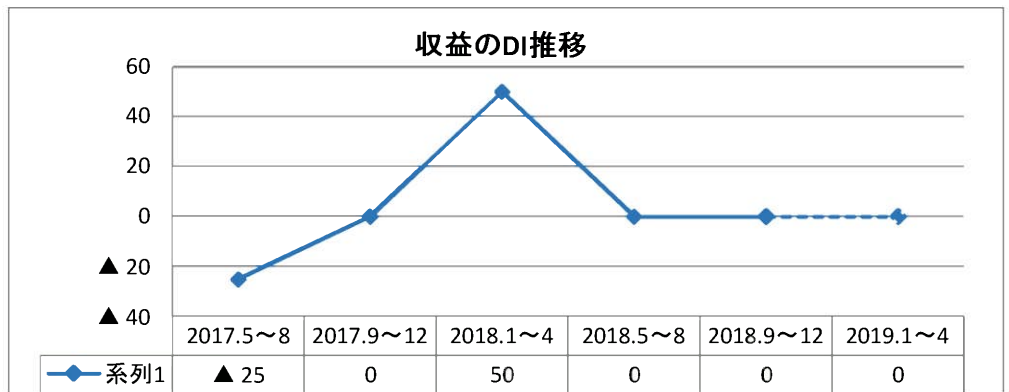
今期の業況は「良い」28.6%、「変わらず」28.6%、「悪い」42.8%でD.I.▲14.3となっており、前期から下降しました。来期の業況はD.I.▲14.3と今期並みの見通しです。



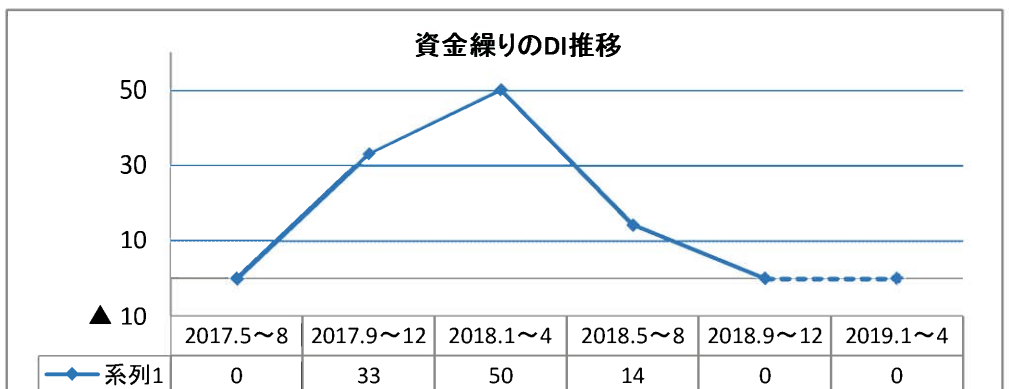
今期の売上は「良い」28.6%、「変わらず」28.6%、「悪い」42.8%でD.I.▲14.3となっており、前期に比べ引き続き大きく下降しました。来期の売上はD.I.▲14.3と今期並みの見通しです。



今期の収益は「良い」28.6%、「変わらず」28.6%、「悪い」42.8%でD.I.0となっており、前期並みに推移しました。来期の収益はD.I.0と前期並みの見通しです。

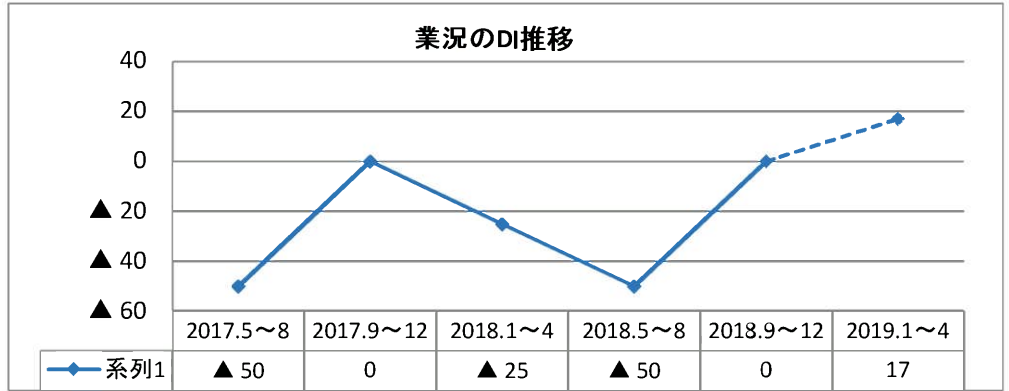


今期の資金繰りは「良い」0%、「変わらず」100.0%、「悪い」0%でD.I.0となっており、前期から引き続き下降しました。来期の資金繰りはD.I.0と今期並みの見通しです。

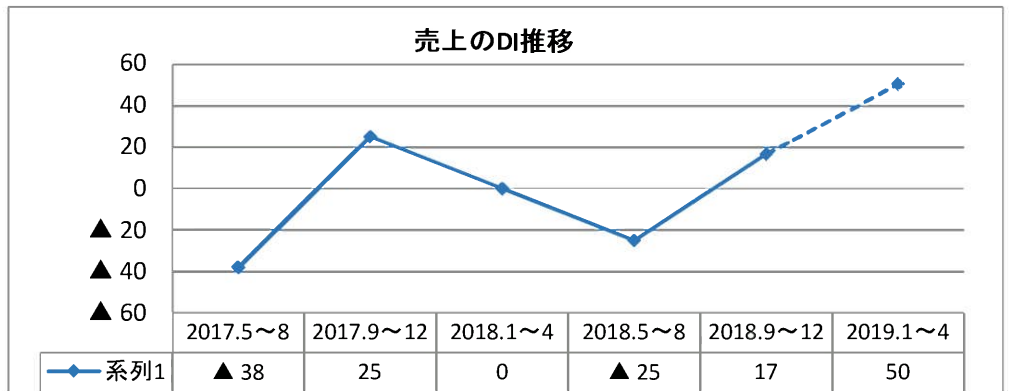


小売業

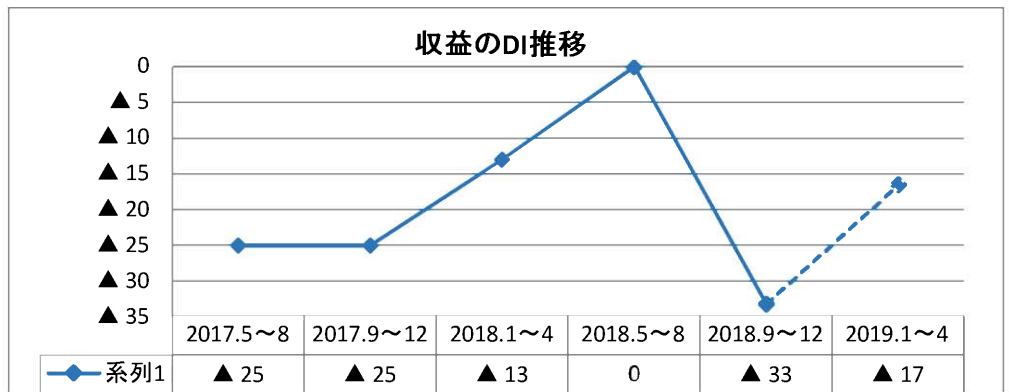
今期の業況は「良い」16.7%、「変わらず」66.7%、「悪い」16.7%でD.I.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の業況はD.I.16.7と引き続き上昇する見通しです。



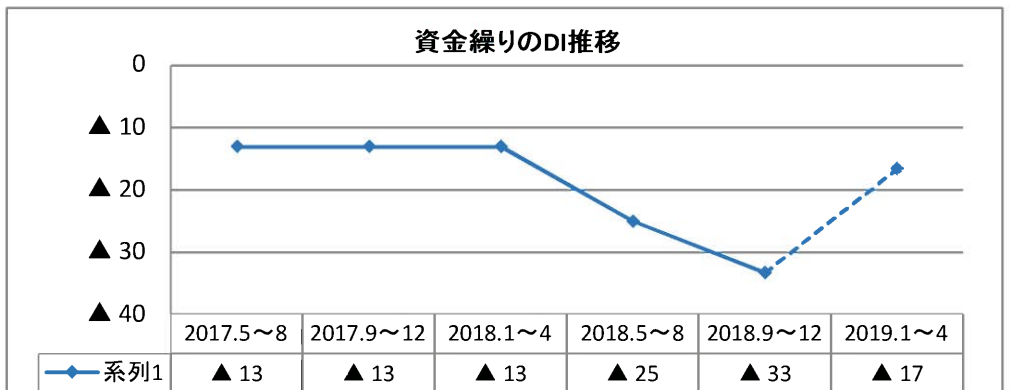
今期の売上は「良い」33.3%、「変わらず」50.0%、「悪い」16.7%でD.I.16.7となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。
来期の売上はD.I.50.0と引き続き大きく上昇する見通しです。



今期の収益は「良い」0%、「変わらず」66.7%、「悪い」33.3%でD.I.▲33.3となっており、前期に比べ非常に大きく下降しました。
来期の収益はD.I.▲16.7と上昇する見通しです。

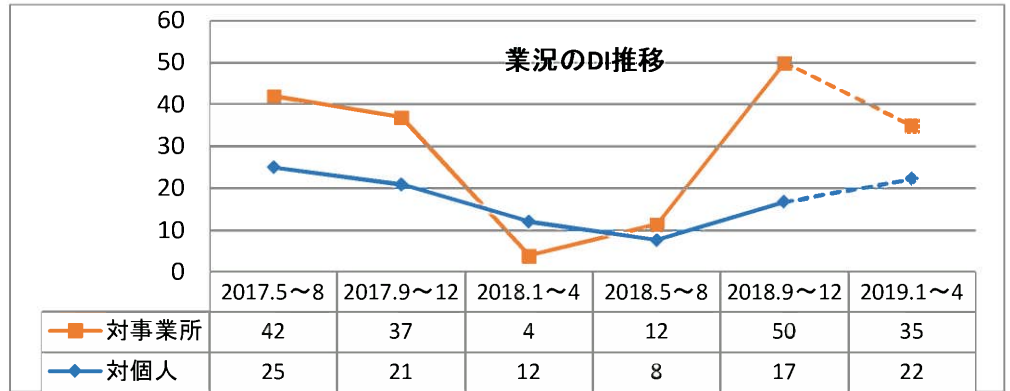


今期の資金繰りは「良い」0%、「変わらず」83.3%、「悪い」16.7%でD.I.▲33.3となっており、前期に比べ引き続き下降しました。
来期の資金繰りはD.I.▲16.7と上昇する見通しです。

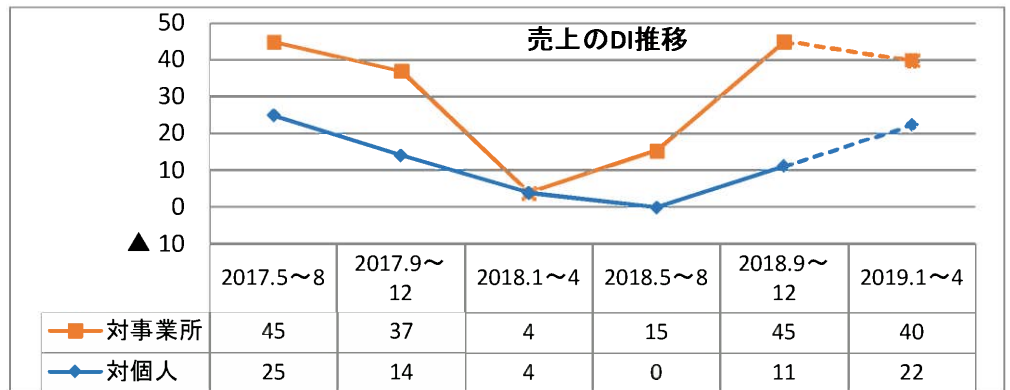


サービス業

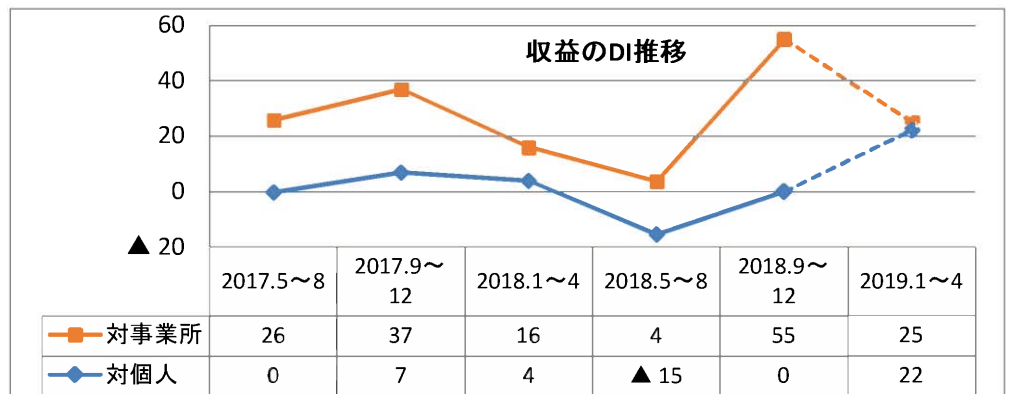
今期の対事業所向けの業況は「良い」50.0%、「変わらず」50.0%、「悪い」0%でD.I.50.0となっており、前期に比べ大きく上昇しました。来期の業況はD.I.35.0と下降する見通しです。
 今期の対個人向けの業況は「良い」22.2%、「変わらず」72.2%、「悪い」5.6%でD.I.16.7となっており、前期に比べ上昇しました。来期の業況はD.I.22.2と引き続き上昇する見通しです。



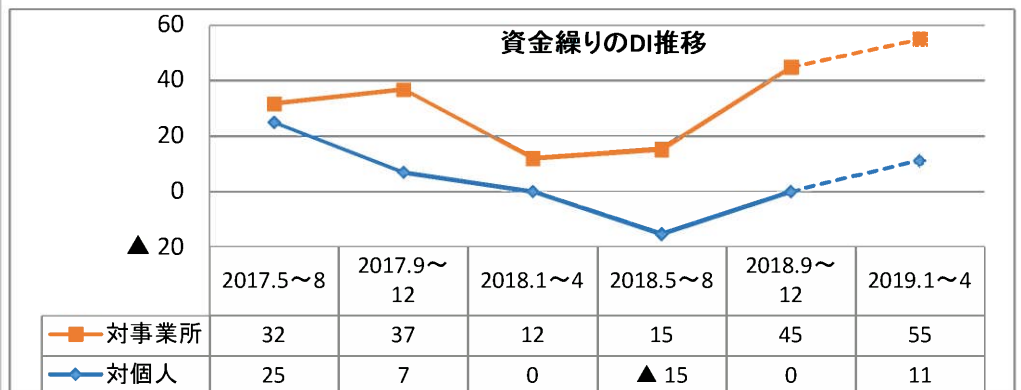
今期の対事業所向けの売上は「良い」55.0%、「変わらず」45.0%、「悪い」0%でD.I.45.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。来期の売上はD.I.40.0と今期並みの見通しです。
 今期の対個人向けの売上は「良い」16.7%、「変わらず」77.8%、「悪い」5.5%でD.I.11.1となっており、前期に比べ上昇しました。来期の売上はD.I.22.2と引き続き上昇する見通しです。



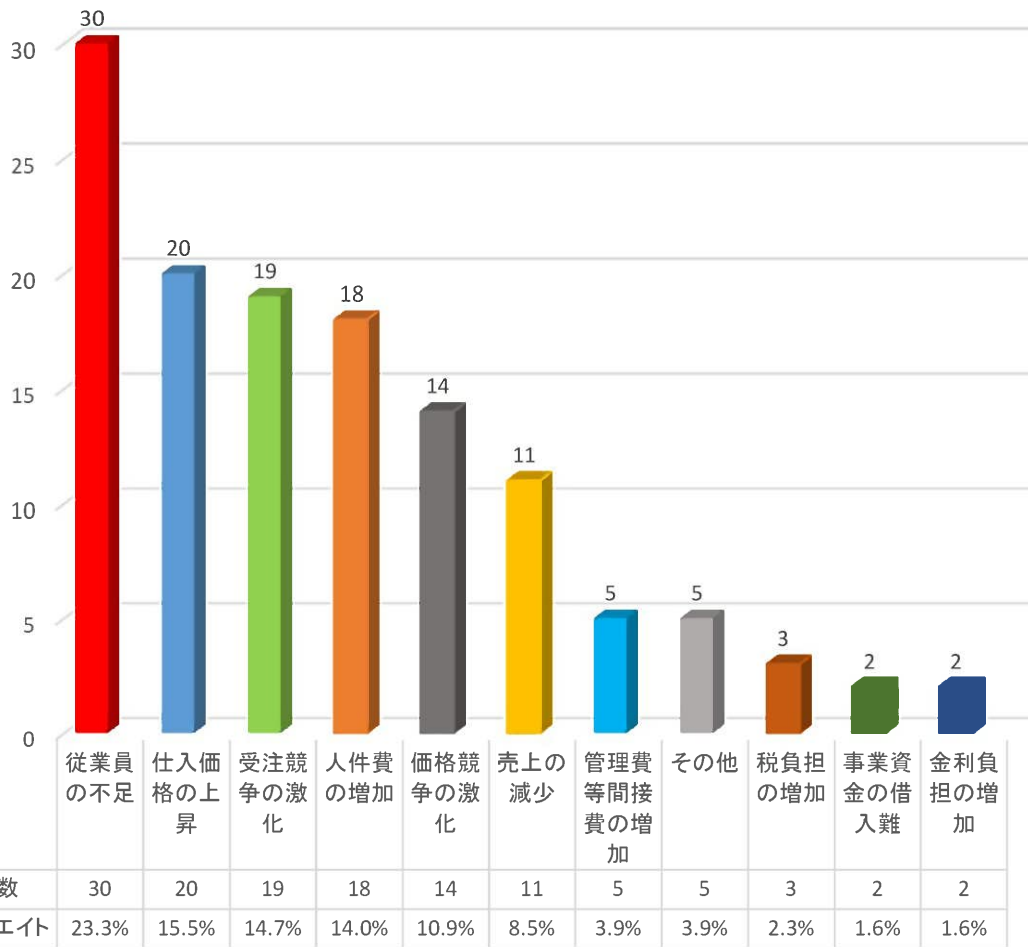
今期の対事業所向けの収益は「良い」60.0%、「変わらず」35.0%、「悪い」5.0%でD.I.55.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。来期の収益はD.I.25.0と非常に大きく下降する見通しです。
 今期の対個人向けの収益は「良い」11.1%、「変わらず」77.8%、「悪い」11.1%でD.I.0となっており、前期から大きく上昇しました。来期はD.I.22.2と引き続き上昇する見通しです。



今期の対事業所向けの資金繰りは「良い」45.0%、「変わらず」55.0%、「悪い」0%でD.I.45.0となっており、大きく上昇しました。来期の資金繰りはD.I.55.0と上昇する見通しです。
 今期の対個人向けの資金繰りは「良い」11.1%、「変わらず」77.8%、「悪い」11.1%でD.I.0となっており、前期に比べ上昇しました。来期はD.I.11.1と引き続き上昇する見通しです。



経営上の問題点

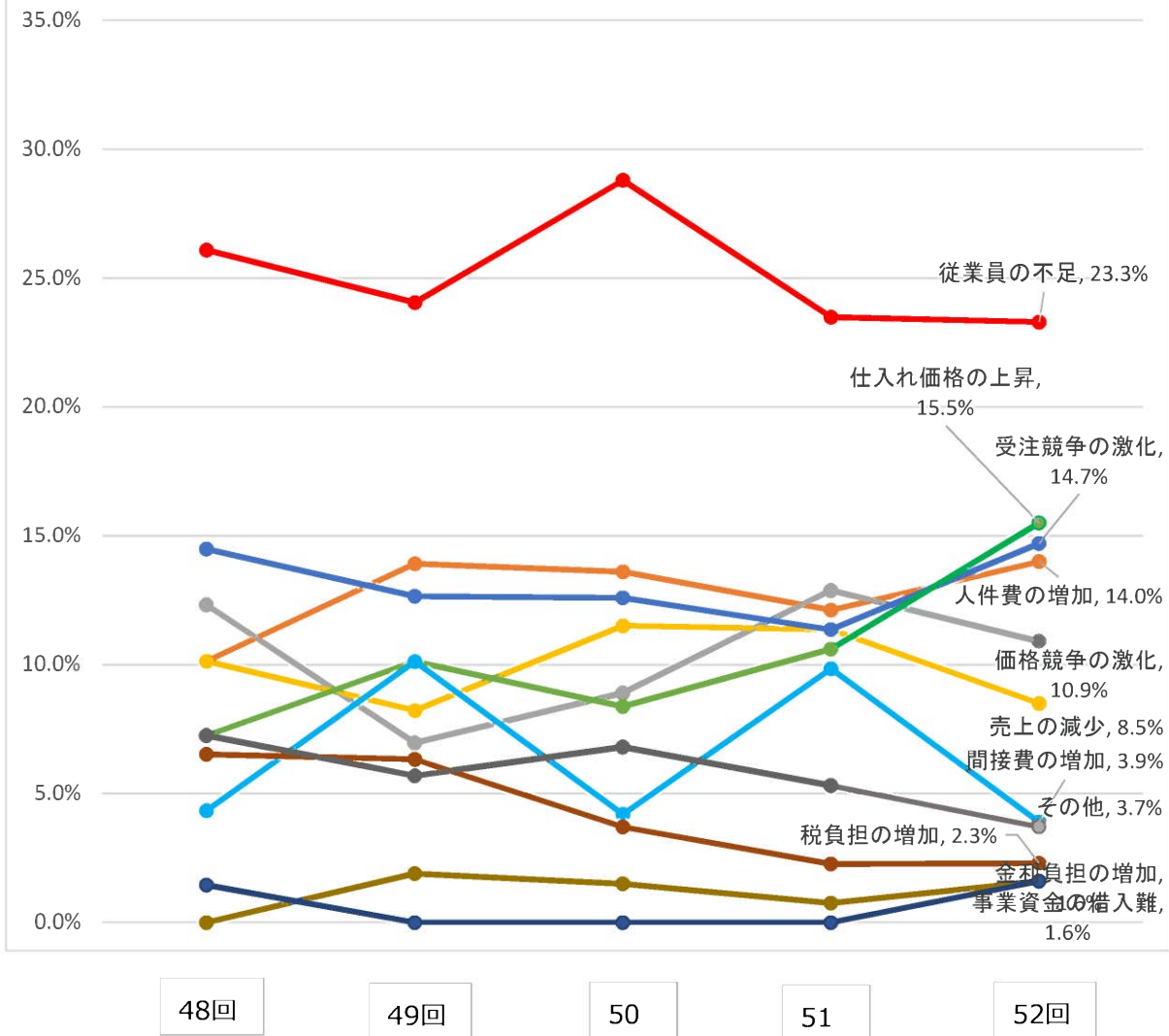


	件数	ウェイト
従業員の不足	30	23.3%
仕入価格の上昇	20	15.5%
受注競争の激化	19	14.7%
人件費の増加	18	14.0%
価格競争の激化	14	10.9%
売上の減少	11	8.5%
管理費等間接費の増加	5	3.9%
その他	5	3.9%
税負担の増加	3	2.3%
事業資金の借入難	2	1.6%
金利負担の増加	2	1.6%

その他

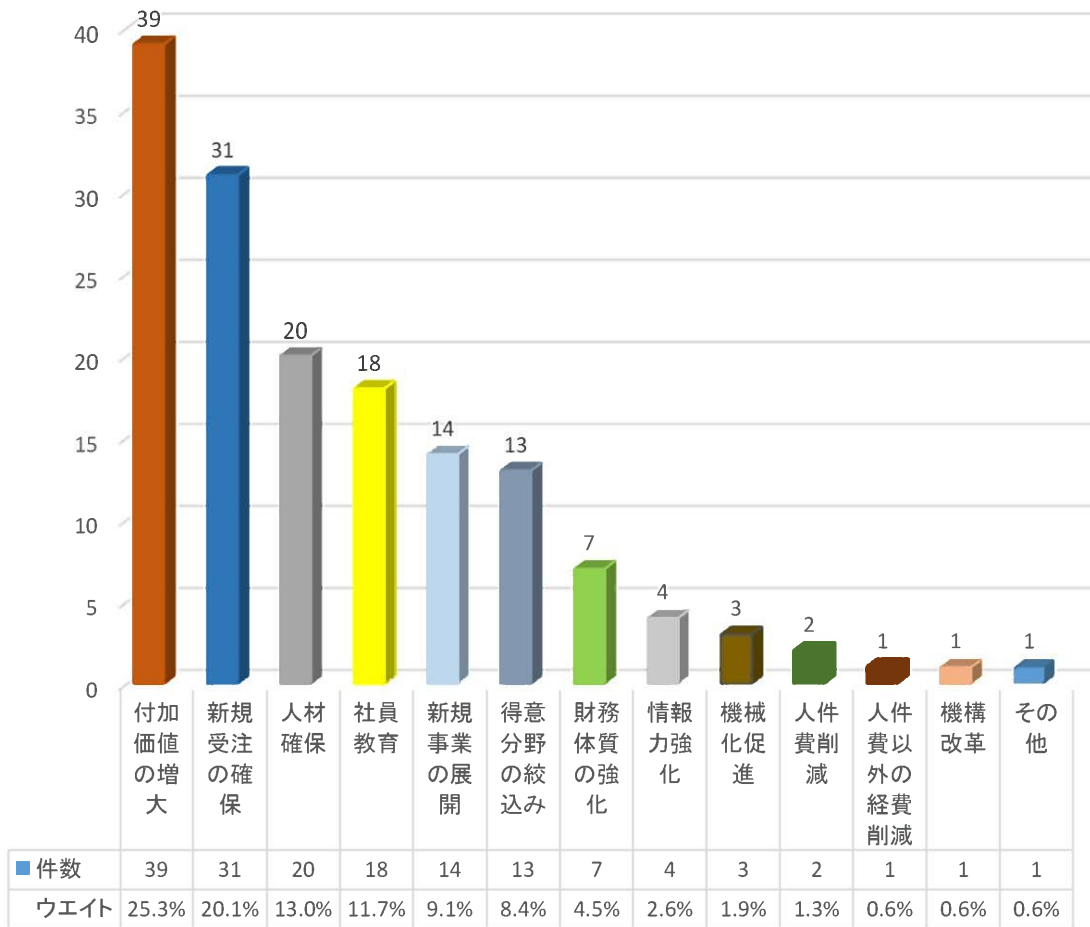
経験不足

経営上の問題点推移（景気動向調査第48回～52回）



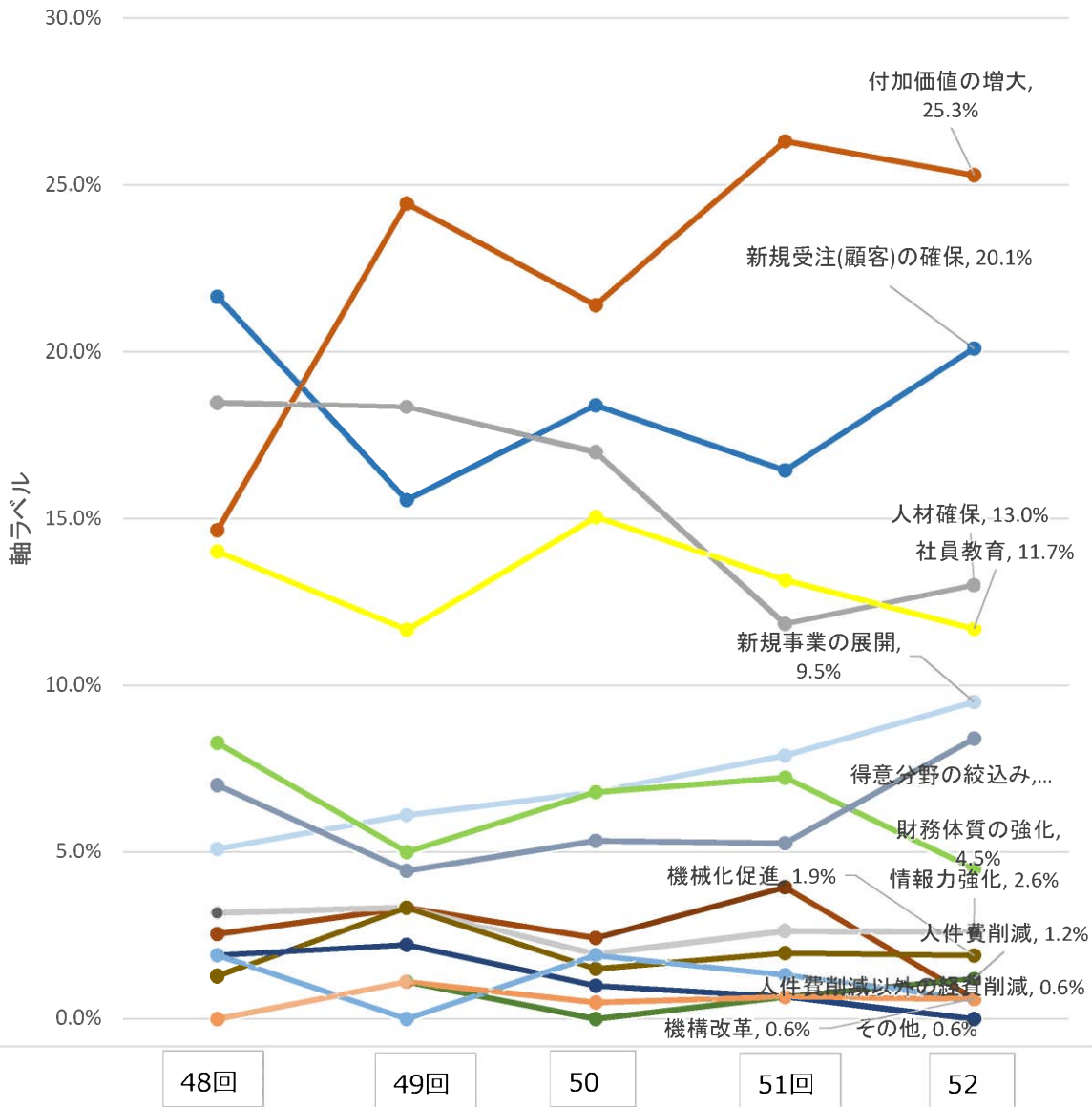
	48回	49回	50回	51回	52回
従業員の不足	26.1%	24.1%	28.8%	23.5%	23.3%
人件費の増加	10.1%	13.9%	13.6%	12.1%	14.0%
価格競争の激化	12.3%	7.0%	8.9%	12.9%	10.9%
売上の減少	10.1%	8.2%	11.5%	11.4%	8.5%
受注競争の激化	14.5%	12.7%	12.6%	11.4%	14.7%
仕入れ価格の上昇	7.2%	10.1%	8.4%	10.6%	15.5%
間接費の増加	4.3%	10.1%	4.2%	9.8%	3.9%
税負担の増加	6.5%	6.3%	3.7%	2.3%	2.3%
その他	7.2%	5.7%	6.8%	5.3%	3.7%
事業資金の借入難	0.0%	1.9%	1.5%	0.8%	1.6%
金利負担の増加	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

経営上の力点



	件数	ウエイト
付加価値の増大	39	25.3%
新規受注の確保	31	20.1%
人材確保	20	13.0%
社員教育	18	11.7%
新規事業の展開	14	9.1%
得意分野の絞込み	13	8.4%
財務体質の強化	7	4.5%
情報力強化	4	2.6%
機械化促進	3	1.9%
人件費削減	2	1.3%
人件費以外の経費削減	1	0.6%
機構改革	1	0.6%
その他	1	0.6%

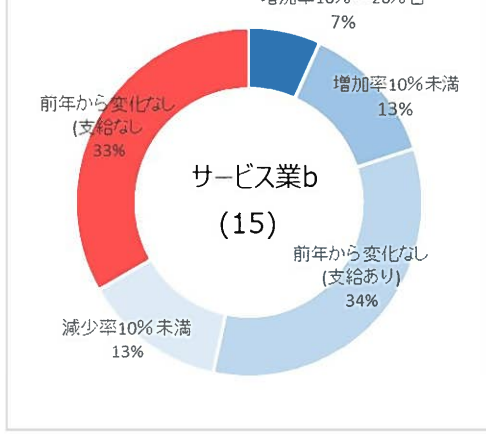
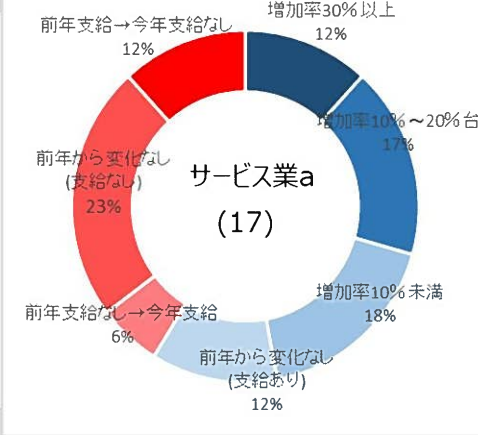
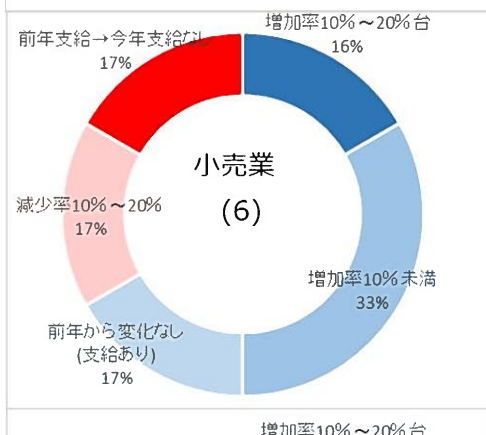
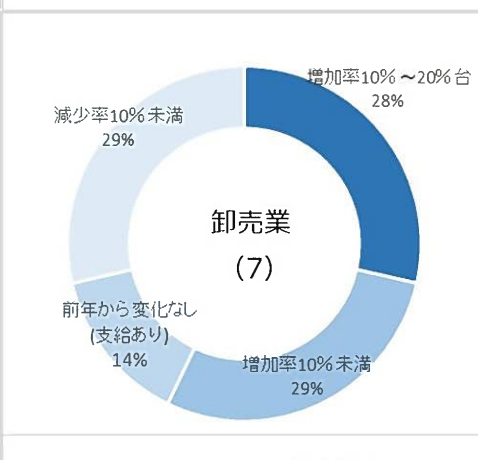
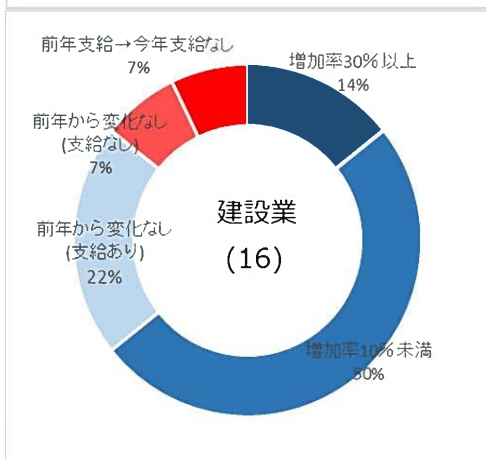
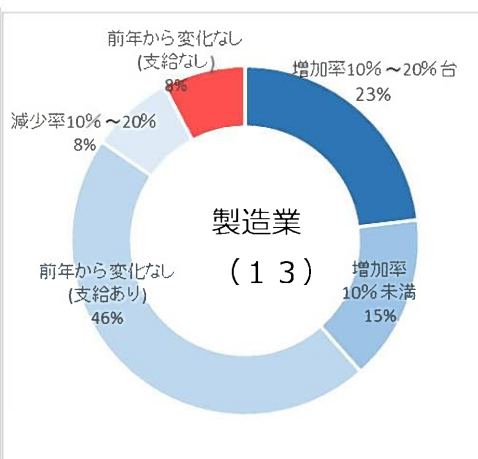
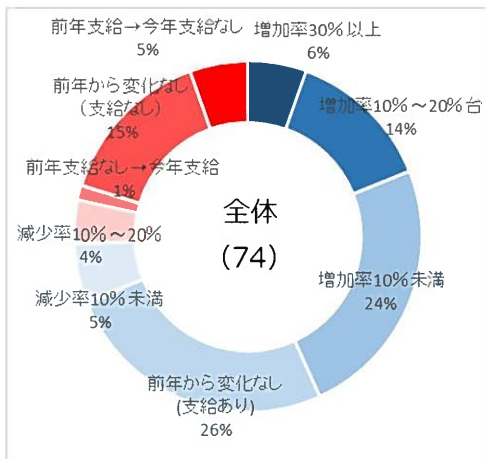
経営上の力点推移（景気動向調査48回～52回）



カテゴリー	48回	49回	50回	51回	52回
新規受注(顧客)の確保	21.7%	15.6%	18.4%	16.4%	20.1%
付加価値の増大	14.6%	24.4%	21.4%	26.3%	25.3%
人材確保	18.5%	18.3%	17.0%	11.8%	13.0%
社員教育	14.0%	11.7%	15.0%	13.2%	11.7%
新規事業の展開	5.1%	6.1%	6.8%	7.9%	9.5%
得意分野の絞込み	7.0%	4.4%	5.3%	5.3%	8.4%
財務体質の強化	8.3%	5.0%	6.8%	7.2%	4.5%
情報力強化	3.2%	3.3%	1.9%	2.6%	2.6%
機械化促進	1.3%	3.3%	1.5%	2.0%	1.9%
研究開発	1.9%	2.2%	1.0%	0.7%	0.0%
人件費削減	0.0%	1.1%	0.0%	0.7%	1.2%
人件費削減以外の経費削減	2.5%	3.3%	2.4%	3.9%	0.6%
機構改革	0.0%	1.1%	0.5%	0.7%	0.6%
その他	1.9%	0.0%	1.9%	1.3%	0.6%

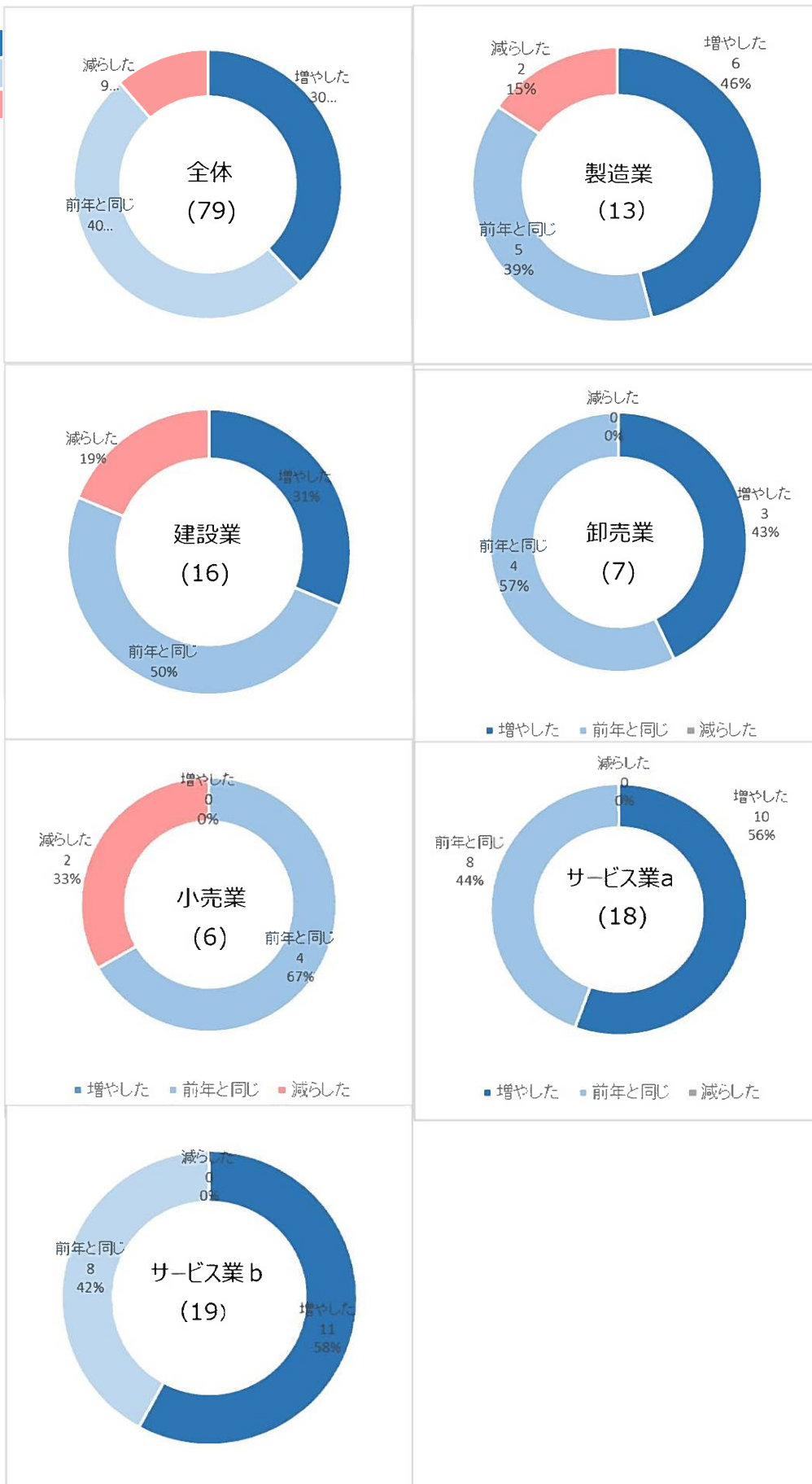
100.0%

(4) 冬季賞与(総額)についてお尋ねします。前年対比でご回答ください。
 【支給あり】1、増加率10%未満 2、増加率10~20%台 3、増加率30%以上
 4、減少率10%未満 5、減少率10~20%台 6、減少率30%以上
 7、前年支給なし→今年支給 8、前年から変化なし
 【支給なし】9、前年支給→今年支給なし 10、前年から変化なし

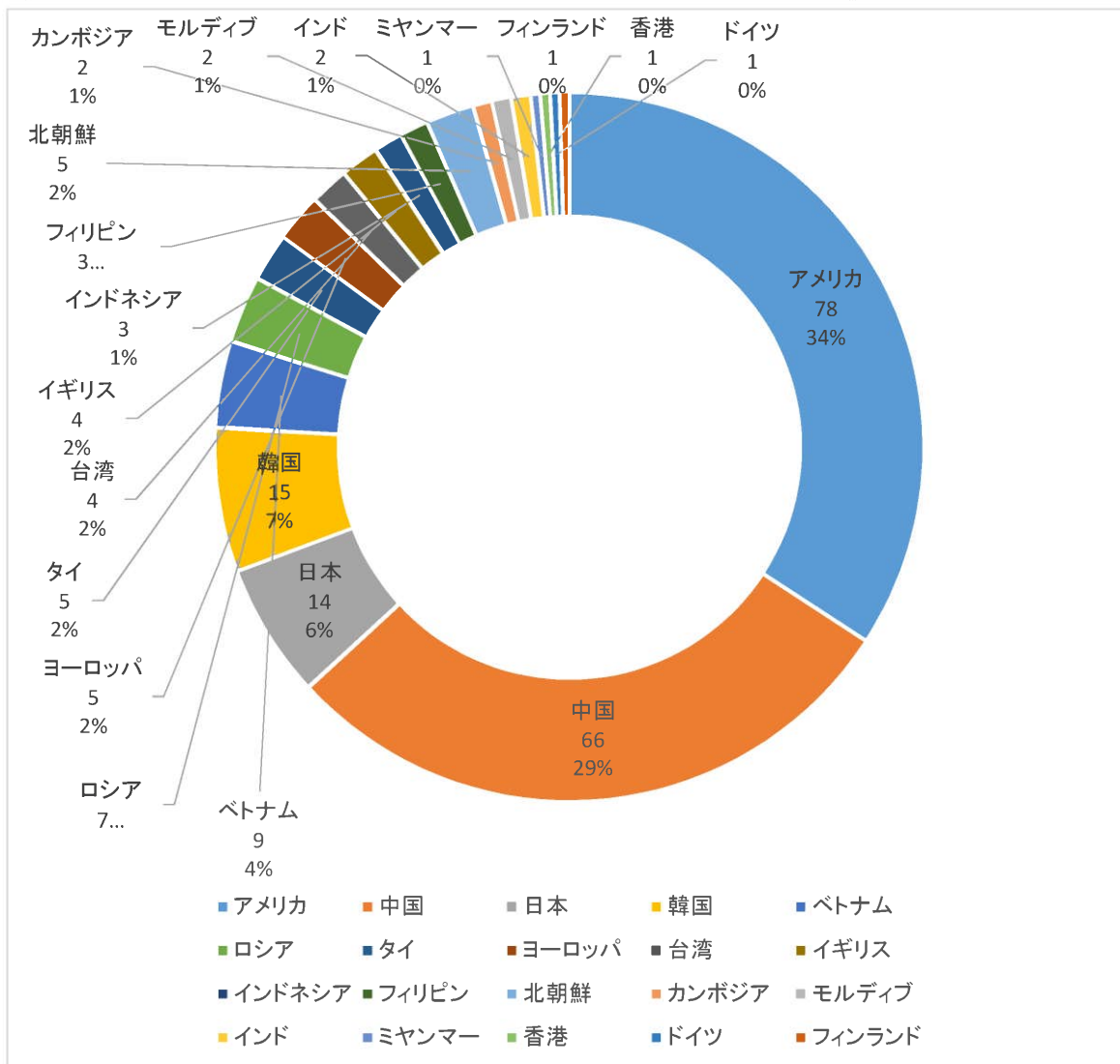


(5) 前年同時期と比べ、2018年7～12月期の経費
 (人件費以外。交際費や設備投資など)を増やしましたか。
 1、増やした 2、減らした 3、前年と同じ

増やした ■
 前年と同じ ■
 減らした ■



あなたが個人的に注目している「国」はどこですか？



主な理由	アメリカ	トランプ大統領の発言・政策、経済大国としての影響力 中国との経済摩擦の行方
	中国	アメリカとの貿易摩擦の行方、経済大国としての影響力、尖閣諸島問題 今後の経済失速への懸念
	日本	安倍政権の施策の行方、経済課題への対策
	韓国	政治摩擦の行方
	ベトナム	経済発展への期待、労働力補完への期待
	ロシア	北方領土問題、平和条約締結への期待
	タイ	経済発展への期待、労働力補完への期待
	ヨーロッパ	イギリス離脱の行方

注記： 1位3点、2位2点、3位1点として、注目度を集計しました。